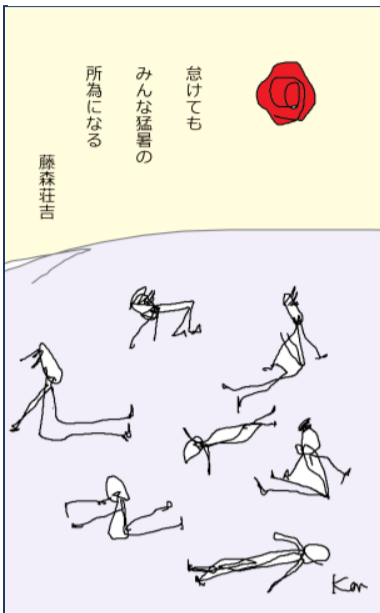


■今月の特選句

2023年10月



怠けてもみんな猛暑の所為になる

藤森荘吉

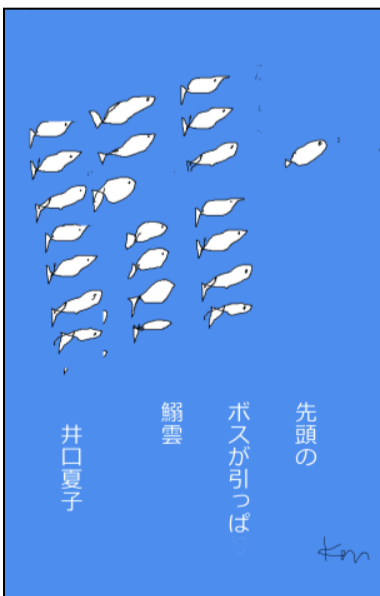
古来、自然災害は不可抗力として免罪符を与えられて、人為的ミスも自然災害に責任を押し付けた。最近では「コロナ」が責任をかぶせられた。



枝豆で語る天下も身の上も

長井多可志

ビールのお供の枝豆をつまみながら天下国家を論じ、上司への愚痴から身の上話まで一通り。同じ話を繰り返すようになったら解散の時間。



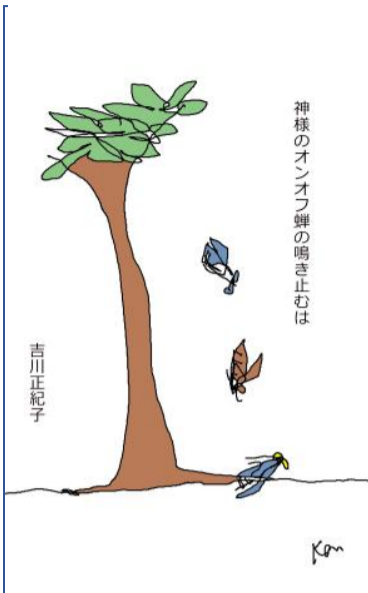
先頭のボスが引っぱり鰯雲

井口夏子

隊列がきちんとしていたり、ゆるかったりするのリーダーの指導力の違いだったのか。先頭の鰯がボスなんだね。厳つい顔で一回り大きい気がする。

■今月の特選句

2023年10月



神様のオンオフ蝉の鳴き止むは

吉川正紀子

蝉の鳴き声が、ふと止まる瞬間がある。あれは、蝉の意志ではなく神様がスイッチをオフにしたからだ。神様もうるさく感じる瞬間があるのだ。



台風や球種覚えてクネクネと

門屋 定

台風を擬人化した句。台風の進路がくねくね変わるのには球種を覚えたからだという。なるほどね。大谷翔平のような魔球は困るなあ。



秋桜や女子会のごとざわめきぬ

卯之町空

コスモスの揺れ咲く様子を女子会のごとざわめきと見た。明るさと軽快さがぴったりで説得力がある。耳を澄ませばおしゃべりを聞き取れるかも。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

囁(ささや)かれ舞い上がってる蛍の夜

・・・蛍も人も有頂天だな

星飛ぶや言うて忘るる軽き嘘

・・・記憶もはるか宇宙の果てへ

台風の製造機あり太平洋

・・・AI使つてなんとかせんか

絵日記にアリバイつくる夏休み

・・・ここに始まる捏造の癖

あたふたと来てあたふたと盆の僧

・・・年に一度のかきいれ時よ

アスファルト熱くて蟻も歩かない

・・・蟻さん用の歩道つくるか

一年は短し夏は長かりし

・・・はて人生も長短あるや

台風が猛暑の猛の字吹き飛ばす

・・・ついでに暑の字も吹き飛ばしてよ

蠮螋(とうろう)の拗ねた横顔三島由紀夫

・・・感性鋭く繊細らしき

秋暑し破れかぶれの提出句

・・・破れかぶれが時に名句に

タブレット世代は知らぬ硯洗

・・・毛筆書体はよく使うけど

風鈴のかるき舌打ち秋深む

・・・夏ほど重用されぬ悔しさ

「釣瓶落とし」の釣瓶はいつこ夕暮れる

・・・覗いて御覧たぶん井戸底

青木輝子

峰崎成規

山下正純

森岡香代子

白井道義

赤瀬川至安

伊藤浩睦

木藤隆雄

久我正明

月城花風

土屋泰山

西野周次

岡田廣江

■今月の滑稽句

* 今月の特選句・秀逸句以外の佳句を青字で表示しています。

炎昼やビル蔭が吐く人人人	相原共良
金魚鉢金魚に猫がキッスして	相原共良
泣き叫ぶ声お化け屋敷をもりあげる	相原共良
ぼんやりとしていてやぶ蚊に血を盗られ	青木輝子
武器よりも怖いコロナ禍うそ寒し	青木輝子
夏の日のすらりと伸びる脛怪し	赤瀬川至安
盆休み高校野球がないと暇	赤瀬川至安
卵かけごはんおかはり今年米	井口夏子
黒マント広げ台風来つつあり	井口夏子
文明の自業自得の炎夏哉	池田亮二
不用不急とて禁錮二か月酷暑の刑	池田亮二
夏休み明けて閑散水族館	石塚柚彩
寝苦しさに窓開け放つ星月夜	石塚柚彩
秋暑しライオンはただ寝てるだけ	石塚柚彩
温室を冷やす工夫をする猛暑	伊藤浩睦
三十二度今日は涼しと庭掃除	伊藤浩睦
とろ〜りとろ母の魔法は葛湯にも	稲葉純子
野良仕事の褒美マンネリ焼きもろこし	稲葉純子
運動会戦ひ終へて日が暮れて	稲葉純子
主婦なれば手抜きメニューも玉の汗	井野ひろみ
この暑さ筋力低下で肥満体	井野ひろみ
汗拭ひ医院に行けば顔なじみ	井野ひろみ
大夕立川の流れをご破算に	上山美穂
寄り道したため息もつき白鷺は	上山美穂
雷鳴をバックミュージックとしてカラス	上山美穂
夏の果て去りゆく空の忘れ物	卯之町空
子の部屋のがらんどろなり今朝の秋	卯之町空
原稿用紙のます目がにらむ夏休み	梅野光子
秋の夜にレコード取り出し昭和人	梅野光子
朝歩く吾に虫らの応援歌	梅野光子
一世紀ぶりに優勝旗見ゆ錦秋の街	遠藤真太郎
女兵士の頑な笑顔草虱	遠藤真太郎
トリチウムが筆のすさびに秋の海	遠藤真太郎
踊りつつ顔の夕日をころがしぬ	大林和代
つやつやと木の肌あらわ秋の雷	大林和代
裸電球朝日浴びてる祭あと	大林和代
子雀もいまや大人よ秋の風	小笠原満喜恵
苦瓜の苦味大人の味として	小笠原満喜恵
蝉の殻手のひらにのせ昆虫博士	小笠原満喜恵

落花生右手で割りつつ本を読む

災害のデータで決めたか二百十日は

木犀やあたかもそこに実家の庭

秋涼しやっと手をつけ断捨離に

役得の涼しさ運動会の裏方に

残暑なり顔を歪める六地藏

近所の子煩かったが二学期に

炎天の妊婦二児目の自信かな

夜泣きの児代はり番こにあやす夏

入道が鯛蹴散らし秋が来る

秋の虫声とルックス一致せず

ミニトマト赤いから好きカープファン

ミニトマト赤点ならば落第だ

七夕や宇宙旅行と短冊に

ご先祖を二泊三日で盆送り

秋立つやウィンツェンさんのピアノ聴く

新走りラベルと瓶を競い合う

太陽をギザギザに切る大カマキリ

鈴虫に緑の籠を残さうよ

最後まで使わずアンパンマンの花火

ドローンの宇宙戦争鬼やんま

帰る人帰られぬ人風雨の盆

特番背に聞き新涼の不貞寝

女子高や石垣白き秋の空

紙パック握ればジュース滴れる

虫集く廊下に鳴らぬ電話待つ

秋の日やクリームパンに歯形つけ

二度延期花開ききる大花火

かぐや姫居たのか月の探査船

八月に満月二回晴れますように

みんなの幼の絵日記蟬の声

帰省子のみなスマホ好き手放さず

子ども等のこころ安しの裸足なり

果てしなくでっかい夢や生身魂

一切を水に流して墓洗ふ

秋の蚊に瘦腕の血を分けてやる

お洒落して秋刀魚を買いに銀座まで

嫁がせた娘に食べさせる秋茄子

岡田廣江

岡田廣江

加藤潤子

加藤潤子

加藤潤子

門屋 定

門屋 定

北熊紀生

北熊紀生

木藤隆雄

木藤隆雄

木村 浩

木村 浩

金城正則

金城正則

金城正則

金城正則

久我正明

久我正明

工藤泰子

工藤泰子

くるまや松五郎

くるまや松五郎

くるまや松五郎

桑田愛子

桑田愛子

桑田愛子

佐野萬里子

佐野萬里子

佐野萬里子

壽命秀次

壽命秀次

壽命秀次

白井道義

白井道義

鈴鹿洋子

鈴鹿洋子

鈴鹿洋子

梅雨明は蟻の列のずっと先

嫌われても空へ空へアワダチ草

国道端のアワダチ草幸せですか

白くなりたい炎天の鴉たち

歳問へば指折り黙る敬老日

暑くても風は涼しく湿りをり

月に見とれてうっかりごぼす月見酒

朝顔も一寸しおれて寝不足か

天の川ラインで話す向う岸

名月と仰げばスパイアドバルーン

漫才師の論ずる政治や笑い茸

身に入むや昔の名では打てぬ打者

法師蟬己を深く観つめたく

腰痛の辛さ身に入む星月夜

彼の人の身を案じるや流れ星

戒名はさらさら要らぬ水引草

木の葉髪監視カメラのとらえたる

あいつには禁句らしくて落花生

もう涙は見たくない終戦の日

幸せは少し苦くも夏料理

夏夕暮ひと息つきし犬と人

カンナにもシミ二つ三つお年頃

葉書には値札のシール法師蟬

孫相手ゲームにはまる生身魂

秋出水目玉おやじの一人旅

商店会サンバで締める秋祭

縁側は父母居るところ萩に風

刃月空を斬り裂き茜染

つくつくと季節の移ろい蟬に知る

初老の二人行合の空の下

歳月や稲を稔らせ背を丸く

復元の写真の赤燃ゆ震災忌

名月の兎を真似て子が跳ねる

飛び火して地球真っ赤よ曼珠沙華

秋暑し麒麟は首を持て余し

なんもかんも四年振りの夏終わる

どうならや空いっばいの赤とんぼ

ギネスですビアと枝豆の仲の良さ

開け放す暮らしありけり青田風

ひつばれひつばれままこのしりぬぐい

ロケットの打ち上げ囃すくつわ虫

鈴木和枝

鈴木和枝

鈴木和枝

高須賀溪山

高須賀溪山

高須賀溪山

高田敏男

高田敏男

高田敏男

竹下和宏

竹下和宏

竹下和宏

田中 勇

田中 勇

田中 勇

田中やすあき

田中やすあき

田中やすあき

谷本 宴

谷本 宴

谷本 宴

月城花風

月城花風

土屋泰山

土屋泰山

長井多可志

長井多可志

長井知則

長井知則

長井知則

永易しのぶ

永易しのぶ

永易しのぶ

西野周次

西野周次

花岡直樹

花岡直樹

花岡直樹

浜田イツミ

浜田イツミ

浜田イツミ

墓洗ふ己が赤文字塗り替へて
 何処へでも自由に移住の渡り鳥
 呆け防止の本贈らるる敬老日
 鳩小首かしげたままに九月かな
 たんすのどこかに水着あつたか秋暑し
 糸瓜ですぶら下がるのが仕事です
 甘い氷菓人事考課の最中に
 この暑さ飲んでも飲んでもみんな汗
 蛞蝓に好かれてをりし私の靴
 墓蛙蠢く館闇深く
 物価高猛暑に喘ぐ日本丸
 脚長き今どきの女子百合の花
 自家製の胡瓜のかくも臍曲がり
 心太好きで女も好きといふ
 はるばると陸奥へ来てまで残暑とは
 DJボリス呼びたい混雑の冷蔵庫
 沈む陽と出る月どこでハイタッチ
 原罪をたらふく呑みし秋の蛇
 水澄むや五欲の底に金の斧
 じいじ〜と呼び止められし落ち蟬に
 大入りのお散歩カート秋日和
 夏草は見栄えがせぬと古女房
 てんぎゅうと呼ばれ天牛驚きぬ
 クロールは溺るるかたち知らんけど
 リボルビングドア炎天へごといん
 盆踊りあの娘に会へるこの日待つ
 ピカドンを知らぬ世代や原爆忌
 卒寿とて卒業できぬ草むしり
 稲雀身の軽々といばみぬ
 蟋蟀や疲れ果ててる徹夜明け
 早起きにちよん切られたる夜長かな
 どちらが高い天高し秋高し
 ノーネクタイの一句締まらぬ秋の句座
 すり鉢の中で山芋波となる
 静物画観てお腹鳴る秋の昼
 梨売が訳あり品を得意げに
 墓参こちらの側へ逢ひに来て
 荒男涙を溜めて岩魚焼く
 雲の峰木霊はみなを招き入れ

久松久子
 久松久子
 久松久子
 日根野聖子
 日根野聖子
 日根野聖子
 藤森荘吉
 藤森荘吉
 細川岩男
 細川岩男
 細川岩男
 ほりもとちか
 ほりもとちか
 ほりもとちか
 南とんぼ
 南とんぼ
 南とんぼ
 峰崎成規
 峰崎成規
 明神正道
 明神正道
 明神正道
 棕本望生
 棕本望生
 棕本望生
 村松道夫
 村松道夫
 村松道夫
 森岡香代子
 森岡香代子
 八木 健
 八木 健
 八木 健
 八塚一青
 八塚一青
 八塚一青
 柳 紅生
 柳 紅生
 柳 紅生

夏草は塾に通わずまだ伸びる
暖流にあなたまかせの秋刀魚かな
子蟻螂習わぬ斧を振りかざす
赦すこと一つ覚えて秋遍路
火のやうな鶏頭の花をりにけり
天の川マヤの暦の不思議かな
説法を終えて入定法師蟬
内省の心芽生えし処暑なりき
お日さまのような諏訪湖の夏の月
桔梗のひとつかく張る庭の隅
コンビニの暖簾は夏色紺と白
熱中症十薬さえも枯れ果てて
猛暑です赤銅色の顔顔顔
うるさいとまでは言はれず蝉しぐれ
秋を詠む心の旅の道すがら
朝焼ける地球を焦がすほどにかな
陽明門の白の眩しく秋暑し
赤べこの駅の新涼只見線
熊よけの鈴すれちがふ秋の朝
マッチングアプリ貸しましょ蝉時雨
ひとあばれギャング集団盆の客
師の一句見つからぬまま夏の果

柳村光寛
柳村光寛
柳村光寛
山岡純子
山岡純子
山岡純子
山下正純
山下正純
山本 賜
山本 賜
山本 賜
横山洋子
横山洋子
横山洋子
吉川正紀子
吉川正紀子
渡部美香
渡部美香
渡部美香
和田のり子
和田のり子
和田のり子